

テーマ アクセシビリティとユーザビリティ

自社のWebサイトを製作する際、デザインや用途はもちろん事業上様々な構想があることは思います。実際私も見た目や画面構成のアドバイス、デザインのご相談を受けることが多いです。きれいなデザインで来訪者の目を惹くことも重要ですが、そのデザイン・サービスを充実させるために、もう一度基本的に考えていただきたい項目があります。

それはアクセシビリティとユーザビリティです。インターネットを使用する上で良く耳にする言葉ですが、つい言い回しだけ便利に使用している方は多いかと思えます。簡単に言ってしまうとアクセシビリティは「誰もが利用できること」を意味し、ユーザビリティは、「使いやすさ」を意味しますが、その本来の目的を知らない方は多いかと思えます。

アクセシビリティとユーザビリティは、ウェブサイトやアプリの成功にとって非常に重要な項目なのです。

01 誰もが利用しやすい環境の実現(アクセシビリティ)

アクセシビリティとは、「誰もが利用しやすい環境」を実現するための重要な概念です。情報通信技術の発展により、社会生活におけるアクセシビリティの重要性がますます高まっています。

1 アクセシビリティとは？

アクセシビリティは、「利用のしやすさ」や「近づきやすさ」と訳され、製品やサービス、情報などを、年齢、障害の有無、利用環境にかかわらず、誰もが利用しやすい状態を指します。

2 アクセシビリティの重要性

アクセシビリティは、多様な人々が活躍できる社会を実現するために不可欠です。具体的に以下のようなメリットをもたらします。

- ◎ 高齢者や障害者など、多くの人々が利用しやすい環境を作る
- ◎ 情報格差の解消、誰もが情報にアクセスできる社会の実現
- ◎ 企業や組織の社会的責任を果たす
- ◎ 製品やサービスの市場拡大につながる

3 アクセシビリティの4つの原則

アクセシビリティを評価するための国際基準である【WCAG 2.1】^{*}に基づき、アクセシビリティの4つの原則を以下に示しています。

知覚可能…情報やユーザーインターフェースの要素は、ユーザーの感覚に認識できる形式で提示されなければならない。

操作可能…ユーザーインターフェースの要素は、ユーザーが操作できるものでなければならない。

理解可能…情報とユーザーインターフェースの操作は、ユーザーが理解できるものでなければならない。

堅牢性…さまざまなユーザーエージェントや支援技術と互換性があり、信頼できる方法で動作しなければならない。

※WCAG2.1…Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.1は、ウェブコンテンツをよりアクセシブルにするための広範囲に及ぶ推奨事項を網羅しているガイドライン

02 使いやすさの追求、ユーザー満足度向上(ユーザビリティ)

ユーザビリティの国際規格【ISO9241-11】では「特定の目的を達成するために、特定の利用者が、特定の利用状況で、有効性、効率性、そして満足とともにある製品を利用することができる度合い。」と定義されています。

1 ユーザビリティとは？

ユーザビリティとは、「使いやすさ」を意味します。これは、誰でも簡単に、効率的に、そして楽しくウェブサイトやアプリを利用できるようにすることを指します。

2 ユーザビリティの重要性

ユーザビリティの高い製品やサービスは、以下のようなメリットをもたらします。

◎ 使いやすい製品は、ユーザーにストレスを与えず、快適に利用することができる(ユーザー満足度向上)

◎ 目的を達成するための操作が簡便なため、作業時間を短縮できる(作業効率向上)

◎ 直感的に操作できるため、すぐに使い始めることができる(学習曲線の短縮)

◎ 操作ミスが減り、作業の質が向上(エラーの減少)

◎ 身体的・精神的な負担を軽減し、ユーザーの健康にも貢献できる(ユーザーの負担軽減)

◎ 使いやすい製品は、多くの人に利用され、市場拡大につながる(製品・サービスの利用促進)

3 ユーザビリティの4つの原則

ユーザビリティを評価するための指標として、以下の4つの原則が挙げられます。

効率性…特定の目標を達成するために必要な時間、労力、ステップが少ないこと。

効果性…目標達成の正確性、満足度が高いこと。

学習性…製品やサービスの操作方法を容易に習得できること。

記憶性…一度習得した操作方法を、時間経過とともに忘れないこと。

03 Web運営における重要性

アクセシビリティの高いウェブサイトやアプリは、より多くの人に利用される可能性が高くなります。これは、潜在的な顧客やユーザーの数を増やすことにつながります。

ユーザビリティの高いウェブサイトやアプリは、ユーザー満足度を向上させ、リピーターを増やすことができます。また、ユーザーがウェブサイトやアプリで過ごす時間を増やすことにもつながります。



執筆者

秋田県よろず支援拠点
スペシャリスト
コーディネーター

富澤 稔

Tomizawa Minoru

埼玉県川口市出身。関東圏にて30年程、玩具・ゲームの製作、デジタルコンテンツ、Webサイト企画等、既存の技術を新しいものに置き換える今と言うDX関連の新規事業に積極的に携わってまいりました。

主に大手家電・自動車メーカーの紙・デジタルを含めたカタログ・取説やサイトコンテンツの企画を手掛けてきました。趣味はバイクとアウトドアなので、その延長で海外のバイク雑誌リポーターや、阿仁でマタギ自然塾を運営したこともあります。

【あそび】考えることを常に心がけています。この【あそび心】こそビジネスでも重要だと確信しております。IT・デザインで新しい秋田のビジネスを創造していきましょう！

04 アクセシビリティとユーザビリティの改善方法

アクセシビリティとユーザビリティを改善するには、さまざまな方法があります。

アクセシビリティの改善方法

- ◎ 画像に代替テキストを提供する
- ◎ 色のコントラストを十分に確保する
- ◎ フォームにラベルを付ける
- ◎ テキストサイズを変更できるようにする

ユーザビリティの改善方法

- ◎ シンプルで分かりやすいナビゲーションにする
- ◎ 必要な情報を分かりやすい場所に配置する
- ◎ ボタンやリンクを大きくする
- ◎ 読みやすいフォントを使用する

アクセシビリティとユーザビリティは、ウェブサイトやアプリの成功にとって非常に重要です。これらの概念を理解し、改善するための方法を実践することで、誰もが利用できる使いやすいウェブサイトやアプリを作ることができます。企業の社会的責任のためにも取り組んでいかななくてはならない項目かと思えます。ITが日常となった今、再度自社サービスを見直す必要があるのではないのでしょうか？